※KPI…Key Performance Indicatorの略。政策ごとの達成すべき成果目標として設定するもの

事業名	事業の背景	事業の概要	事業効果	KPIЖ	目標値 (計画期間累計)	平単年度目標	成29年度 実績	事業費(円)	単年度目標	平成30年度 実績	事業費(円)	単年度目標	令和元年度 実績	事業費(円)
美里の未来を見つけます事業(三み一体事業)	津市は、平成18年1月1日に10市町村が合併を行っているが、合併した旧市町村の一つである旧美里村を範囲とする美里地域は、江戸時代、伊賀街道の重要な宿場として栄えてきた歴史があり、今もなお数多くの歴史的資産が存在する。また、当該地域は、標高819メートルの経ヶ峰のふもとにある中山間地で、清流長野川が走る、豊かな自然が残る地域である。そしてそのような環境で育んできた、人ととの繋がりが強いコミュニティがいくつか形成されている。 しかしながら、地域の人口は、平成28年12月現在で約3,600人となり、平成18年以後約10年間で約	平成29年度から地域内3小学校と1中学校を統合する義務教育学校「みさとの丘学園」を開校し新たな教育実践に取り組むこととしているが、閉校する3小学校区では、それぞれ人と人の繋がりが強く、地域の未来に向けた取組を進めたいという意欲を持つコミュニティが形成されている。	モーニングカフェ「朝ごはんや」(毎月1回 80名) 辰水・・・たつみずフェスタ 約600人 「ほろ酔いジャズコンサート 約300人 放課後子ども教室(毎月1回 20名) たつの和カフェさくら(毎月1回 100名) ◆各協議会において、旧小学校施設を活用した活動の幅を広げ、これらの取組を通じて、協議会の活動に協賛いただける個人・団体の輪を拡大することができ、持続可能な事業展開に向けた協議会組織の強化に繋げることができた。 ◆「みさっと」が中心となり、各協議会の活動における交流や情報交換を行うなかで、イベント時のスタッフ応援など、地区を越えた協力体制を構築することができた。 ◆日小学校施設の利活用については、行政が施設管理を行い、施設の運用や具体的な事業実施を協議会が担うことで協議会の負担軽減を図るとともに、活動の幅を広げ、自由度を高めるため、行政からの要請は最小限にとどめることで、各地区の特色を活かした独自性のあるイベントの開催に繋げることができた。 ◆活動の継続に必要不可欠な自己資金の確保に向けては、令和2年度からの完全な自主運営の実現には至らないものの、イベント等から一定程度、収益を上げることができ、自主運営によ	を小学校区で地域づくりに携わる地域の 方々の人数の総計: 260	260人	40人增加	40人 (達成)	人(約事業費) 1,500,000 (うち交付金 充当5,000	100人增加 ※累計140人 増加	100人 (達成) 【KPI増加分の	(総事業費) 1,500,000 (うち交付金 充当経費) 735,000	100人增加 ※累計240人	100人 (達成) 【KPI増加分の 累計(実績)】 240人	
		拠点を形成するとともに、地域の食材の活用、販路や交流人口の拡大を図る。 ◆人口減少にあっても衰退しない地域コミュニティと拠点の形成 ◆地域の食材の活用、販路や交流人口の拡大		各小学校区での取り 組みを通じて創出す る地域外からの集客 数:360人 ※計画期間合計	360人	100人增加	4,800人 (達成)		100人增加 ※累計200人 増加	100人 (達成) 【KPI増加分の 累計(実績)】 4,900人		100人增加 ※累計300人 增加	100人 (達成) 【KPI増加分の 累計(実績)】 5,000人	(総事業費) 1,500,000 (うち交付金 充当経費) 735,000
		 		イベントにおける年間集客数:1,100人 ※計画期間合計	11000人	600人增加	11,350人 (達成)		300人增加 ※累計900人 増加	増加せず (未達成) 【KPI増加分の 累計(実績)】 11,350人		100人增加 ※累計1,000人 增加	増加せず (未達成) 【KPI増加分の 累計(実績)】 11,350人	

評価と今後の取組みの方向性(検証結果)

3つのKPIのうち、「各小学校区で地域づくりに携わる地域の方々の人数の総計」及び「各小学校区での取り組みを通じて創出する地域外からの集客数」の2つで目標値を達成した。残る1つの「イベントにおける年間集客数」については、初年度において大きく目標値を上回る結果となり、そのため、以降の2カ年において単年度目標を達成することができなかったもので、集客数自体は十分に確保することができ、交流人口の拡大を図ることができた。持続可能な活動に向けては、財源の面で課題はあるものの、「みさっと」や「各地区協議会」という確かな運営体制を構築できたことに加え、イベント等での収益による自主運営の方向性を見出すことができた。また、地域の多様な年齢層の方々が協力し合い、地域の特色を活かしながら様々な活動を行うなかで、これまで以上に地域コミュニティの充実・強化を図ることができた。今後は、継続した人材の確保・育成はもとより、多様な媒体を通じた魅力的な情報発信に努め、各イベント等の収益性を高めていくなど、地域の高いモチベーションを維持しながら、自主運営による持続可能な活動の実現に向けた取組を進めて行く。